

英語科 授業づくり講座

"The Most Important Thing to Me"

～理由や根拠を明確にして話そう～



発行
令和3年3月18日
中部教育事務所



授業者 國澤 友美 教諭
(須崎市立朝ヶ丘中学校)

単元 第3学年 PROGRAM 7 What Is the Most Important Thing to You? (開隆堂)

CAN-DO リスト形式の学習到達目標：【話すこと（発表）】社会的な話題に関して読んだことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

単元目標：友達に、自分にとって一番大切にしていることを知ってもらうために、自分自身がどんなことを考え、何を大切にしていきたいかについて、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

単元計画 (全10時間 本時4時間目)

第1次 1時 単元のゴールを理解し、単元の見通しをもつ。

第2次 2～6時 ①教科書本文を読み、引用しながら自分の考えを述べる。
②トピックについて理由とともに自分の考えを述べる。

トピックを変えながら言語活動を繰り返し、資質・能力を育成する

第3次 7時 単元ゴールとなるプレゼンテーションに向けて、考えの整理を行う。
8時 プレゼンテーションのポイントをクラスで共有する。
9、10時 「自分にとって一番大切なもの」をテーマにプレゼンテーションを行い、フィードバックをもとに、よりよい表現にしていく。

★知的好奇心をくすぐる
言語活動のトピックを工夫

本単元で扱ったトピック

- ・「こんな人になりたい」
- ・「社会をよりよくするこんなアプリが欲しい」
- ・「私が総理大臣だったらこんな日本にしたい」

社会的な話題について
思考を深めていく

単元について

本単元では、国際協力をテーマとした教科書本文等を読んで考えたことやその理由を、本文を引用しながら自分の言葉で伝え合う言語活動を繰り返すことで、理由や根拠を示しながら、まとまりのある内容を整理して伝える力を育成する。毎時間、友達からの助言や、中間指導で全体共有したことを参考に、自分が伝えたい内容を深めたり、正確な英語表現にしたりして、再構築を行っていく。そして第8時では内容面・構成面・言語面について、プレゼンテーションで気をつけたいポイントを考え、共有する。第9、10時では相手を変えながら複数回プレゼンテーションを行い、聞き手からのフィードバックを受けてさらにより良いものに再構築させる。

本時の展開

活動内容	指導上の留意点
1 Small Talk “What kind of person do you want to be?” をテーマにペアで伝え合う。	お互い質問して、会話を継続・発展させるように促す。 
2 Mapping 教科書本文を読んで、自分が考えたことと、その理由や根拠をマッピングする。	本文の要点や印象に残ったこと、それについての自分の考えと理由をキーワードや絵を用いてマッピングさせ、ナンバリングさせる。
3 Speaking ①ペア活動（発表後、聞き手は質問や助言を行う）⇒②全体共有⇒③再構築のサイクルで、3回相手を変え、修正を加えながら伝え合う。	中間指導で生徒の発話を取り上げ、Speaker と Listener の視点に分けて、よりよい内容・構成・表現にするためのポイントを可視化して共有する。
4 Summary and Reflection ①発話内容を再構築したものを整理して書く。 ②振り返りを書いて、ペア・全体で共有する。	①板書や中間指導で共有したこと等を生かして書かせる。 ②本時で意識したことやできるようになったことを振り返らせる。

教材研究会での協議

言語活動の質を高めるために

①インプットを充実させる

⇒教科書以外の情報にも触れさせる

②グッドモデルを具体的に示す

⇒中間指導や板書を効果的に

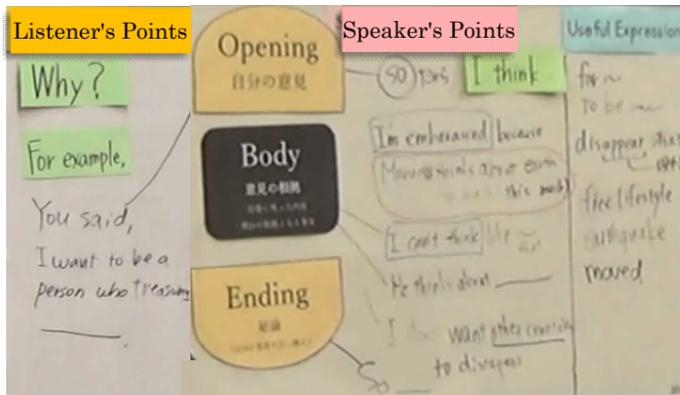


授業づくりのポイント

①再構築を促す中間指導

言語活動の後の中間指導では必ず

「言いたかったけど言えなかった表現」について全体で考え、既習表現を生かして表現する力を育成するとともに、生徒の発話を基に、内容や表現、構成について、価値付けたり、指導を加えたりすることで、学級全体の生徒の気づきを促し、再構築につなげた。



【文部科学省 山田誠志 教科調査官 より】
外国語科の授業づくりで大切にしたいこと

①生徒から引き出す・生徒に気付かせる

外国語の知識・技能は、思考・判断・表現を繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まる。言語活動と言語活動の間には、生徒の発言を取り上げ、フィードバックを行ってよりよい表現を引き出ししたり、気付かせたりする中間指導を行うなど、言語活動を通して指導することが大切である。

②客観的事実を根拠に意見を述べさせる

中学3年生であれば、“I like English because it's fun.”のような、主観的な理由で考えを述べるレベルから引き上げ、“I think ○○ because ～客観的事実～.”のような形で、客観的事実を根拠に説得力のある意見を述べられるようにしたい。

②生徒の思考を助ける構造的な板書

発話内容を論理的なものとするために、Opening-Body-Ending に分かれた思考ツールを用いて構成を意識させた。価値付けたい生徒の発話は中間指導で取り上げ、3つに分類して可視化して残し、参照しやすいように工夫した。さらに、Listener's Points と Speaker's Points の2つの視点に分けて示すことで、話し手と聞き手、両者の思考に働きかけるものとなった。

まとめ

生徒の実態として、根拠を明らかにして自分の考えを述べることに課題があると捉えた國澤教諭は、教科書を効果的に活用することで、課題解決を目指した授業を行った。教科書の内容理解にとどまらず、教科書を引用しながら自分の考えを述べる言語活動を繰り返させるという単元構想を仕組み、「教科書を教える」ではなく「教科書で教える」ことを大切に実践された。音読の指導を充実させ、教科書をリテルさせたうえで、教科書の表現を使いながら自分の意見を述べる言語活動を繰り返し行うことで、目指す資質・能力の育成を着実に図っている。生徒の気づきを引き出すために、言語活動の後には必ず聞き手からのフィードバックがあり、中間指導での全体共有も活かしながら再構築し続けさせることで、主体的・対話的で深い学びの実現が図られた。



言語活動を通して資質・能力を育成する

I want to something for the earth.

Oh, that's nice!
What do you want to **do** ?

I want to **do** something for the earth.
I want to pick up...ah...street by trash...
ah...someone threw away...

(文をつなげて言いたいな...そうだ！Q
教科書本文にあった、関係代名詞 which
が使える。物の後に来るから...)

I want to pick up **the trash which**
someone threw away on the street.

「生徒は間違えながら学んでいく」

